



公立学校共済組合
四国中央病院

日本医療機能評価機構認定病院

しこく

ホームページアドレス <http://www.shikoku-ctr-hsp.jp/>

第50号

2012年12月

住所: 愛媛県四国中央市川之江町2233番地 TEL(0896)58-3515 FAX(0896)58-3464



今月のイベント

◇巻頭言		
人間ドック - 転ばぬ先の杖 -	健康管理センター長 相原 泰	2・3
◇特集1 第48回中央病院学会の開催		4
◇特集2 当院と地域の連携について	病院長 森本忠興	5
◇部署だより ご存知ですか「おくすり手帳」	薬剤部長 森 真人	6
◇地域連携だより 開放病床登録医師のご紹介		7
◇新任医師・職員紹介		7
◇院内のできごと・お知らせ		8
◇表紙のことば～心は一つに～		8
◇編集後記		8

病院理念

【真心・信頼・連携・思いやり】

広報誌

しこく

第50号 発行平成24年12月21日
編集 四国中央病院広報・年報委員会
e-mail s-tyuou@shikoku.ne.jp

人間ドック

― 転ばぬ先の杖 ―



健康管理センター長
相原 泰

よくある失敗に「思い違い」というのがあります。先日、脚本家・小説家としてご活躍された向田邦子さんのあるエッセイの冒頭に、荒城の月の一節「めぐる盃かげさして」を少女時代にこの筆者は「眠る盃」と覚えてしまい、以来なかなか修正できなかったという思い違いのエピソードがありました。私も学生時代より人間ドックのことをずっと「人間ドッグ（犬）」と思い違いしておりました。ドックと知ったのは医師になってからかなりの歳月が過ぎてからのことでありました。

果たしてドックの語源やいかにかと思ひ、辞書にあたりますと英語の dock とは日本語で「船渠（せんきょ）」とあり、船舶を建設・点検・修理する設備とのことです。日本で通常使われるドックとは dry dock（乾ドック）で、船のドックのうち、水を追い出して乾いた状態で船を修理できる構造のドックの事をいいます。人間を船になぞらえた人間ドックの日本での語源ですが、作家の山田風太郎の著書「人間臨終図鑑」の中で、明治の軍人大山巖が「人間も船と同じで時々ドックに入って検査しないといかん」と言ったのが始まりとか。とにかく、犬のドッグとは全く関係のない由来でした。

さてドックの歴史であります。日本における生活習慣病健診は 1953 年に「成人病精密総合診断」として初めて行われ、翌年 1954 年 7 月 12 日に短期入院を伴う人間ドックが開始されました。最初は「短期入院精密身体検査」と堅苦しく表現されておりましたが、この検査について報道した当時の読売新聞の記事において「人間ドック」という巧みなネーミングがされ、やがてこの呼び方が広く定着したようであります。ちなみに 7 月 12 日は現在では記念として「人間ドックの日」となっております。

日本で人間ドックが始まって実に半世紀以上が経ったわけですが、健診の内容も随分と変わってきました。医学における進歩はめざましく多くの非侵襲的診療機器が現れ、超音波検査はもとより CT や MRI に加え最近では PET - CT も導入される時代になっております。

そして現在の健診の主流は生活習慣病検診（いわゆるメタボ検診）と癌検診になっております。疾病の発生そのものを防ぐ一次予防と、疾病の早期発見と早期治療を目指す二次予防が、医療政策に基づく対策型健診のみならず人間ドックなどの任意型健診によっても行われているのが現状であり、日本が世界の冠たる長寿国となっている所以でもあります。

ここで四国中央病院における人間ドックの歩みを簡単に紹介いたします。1959 年に教職員のための結核対策として四国中央病院が開設されましたが、1973 年に結核病棟は廃止になり人間ドック床 21 床が開設されました。1999 年にはドック棟全室個室化が

実現され、2007年には職域病院としてのドック健診を充実させるため北館6階ドック棟に健診業務を集中一本化し効率化を図りました。2008年には名称を「健康管理センター」と改め、人間ドック検査項目に特定健診を包括し特定保健指導にも取り組んでおります。平成23年度の健診者数は7780名にて、その内組合員の割合は53%と半数以上を占めております。また健診事業収益は病院全体の医業収益の9.7%と約1割を占めるまでに至っております。

国を挙げての生活習慣病対策とがん対策は人間ドックにおきましても大きな役割を担っております。より質の高い健診を提供してゆくためには精度と効率を更に上げてゆかねばなりません。今後の当院における健康管理事業の対策として次のような点を挙げてみました。

① 健診者数の増加。

宿泊ドックはドック棟ベッド数（現在個室24床）の制限があり増員は困難なため、1日ドック数の増員を図ってゆかねばなりません。具体的な方法として、退職者や職員及び職員紹介者の割引ドック等を導入しております。

② 特定健診の保健指導。

特定保健指導に対して、積極的支援は定期的な継続支援が必要なため受診者の地理的条件で辞退者が多い現状ですが、動機付け支援に関しては保健師が2名おりますので今後も増員を目標としております。

③ オプション検査。

受診者の健康に対するニーズの多様性と健診精度の向上のためオプション検査は欠かせません。当院でも例年、胸部CT検査と頭部MRI検査を多くの方が利用されておりますが、昨年より新たに睡眠時無呼吸検査も導入いたしました。時代のニーズに応じた検査の組み合わせを今後も提供してゆきたいと計画しております。

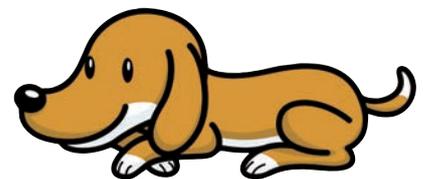
④ 統計資料の作成。

健診の目的は異常を発見することだけではありません。発見された異常に対していかに迅速にかつ有効に対処できたか、そしてその結果どのような有益性が生まれたかを、個人ならびに集団として評価してゆかねばなりません。例えば胃癌検診の発見率など、健診の質を向上させるような科学的根拠に基づいた統計資料の作成と開示が必要であり、今後取り組んでゆかなければならない課題と考えております。

四国中央病院は職域病院としては組合員に対する健診業務は職域貢献事業であると私共は認識しております。今後とも健診業務の質の向上ならびにサービスの向上に更に努めてゆく所存であります。

我が国には古くより「転ばぬ先の杖」という故事があります。英語では Prevention is better than cure.（予防は治療にまさる）とか。

人間ドックによる健診を疾病の早期発見・早期治療のみならず日々の健康の維持と増進に生かし、より豊かな人生を送られることを切にお祈り申し上げます。



第 48 回中央病院学会の開催

広報・年報委員会

平成 24 年 10 月 26 日、第 48 回中央病院学会が開催されました。私ども、四国中央病院は公立学校共済組合の直営病院です。公立学校共済組合は東京に本部、また、直営病院を全国 8 か所に展開しております。これらの公立学校共済組合直営の中央病院で毎年持ちまわりで「中央病院学会」を開催しており、今回は私どもが主催となり、松山全日空ホテルでの開催となりました。



森本病院長の挨拶



会場の様子

今回の学会には本部及び各病院から医師、コメディカル、事務など 100 名近くの方々が参加されました。関連病院とはいえ、このような他職種の方々が一堂に会することは、この「中央病院学会」のほかにはなく、初対面の方々が多かったと思われます。

関連病院とのこともあり、受付から開会までの間は和やかな雰囲気でありましたが、開会の時間となれば学会らしい雰囲気に一変しました。当院病院長、本部理事の挨拶のあと、いよいよ発表が始まりました。本日 1 日で 25 題の発表というかなりハードな日程であり、発表者もこれまでに何度も学会発表をされている先生方、本日が初めての方など様々でありましたが、セッション毎に担当していただいた座長による巧みな進行により、盛会のうちに無事終了することができました。

◆ 当院の発表者 ◆



相原内科リウマチ科部長



毛利副看護部長



阿部主任検査技師



藤原社会福祉士

遠方から参加された皆様方、ありがとうございました。来年は東海中央病院での開催となります。当院からも 1 名でも多くこの「中央病院学会」に参加したいと考えております。その際にはよろしくお願いします。

当院と地域との連携について —地域医療の充実を目指して—

病院長 森 本 忠 興

当院は、昭和34年5月に公立学校の教職員の結核対策のための職域病院として、旧川之江市に開設されました。その後、疾病構造の変化により、がんや生活習慣病など一般疾病による患者の増大に伴って、地域の皆様の医療機関としての機能を果たすこととなりました。この間、市をはじめとする行政機関との連携を図り、市の協力をいただきながら診療体制の充実を図ってきたところで

す。一方、平成16年4月の医師の新臨床研修制度開始を契機に、地方における病院を取り巻く環境が激変いたしました。医師の都市部への集中と地方の医師不足、診療科医師の偏在などの問題が顕在化し、それにより大学本体の医師不足からの医師の引上げが始まり、地方の病院は一気に小児科、産婦人科、内科、外科等のほとんどの診療科において、医師不足の状態となりました。いわゆる「医療崩壊」と言われる状況で、当院でも医師不足が進行いたしました。

これらの対策として、平成21年度に愛媛県により宇摩圏域地域医療再生計画が策定されました。その内容は、初期救急医療の拡充や強化、当院を含めた中核病院の形成を核とした地域医療体制の再編や強化、大学との連携による救急医療等従事医師の養成等です。

地域医療再生計画を受け、当院は地域医療の充実のため、平成22年4月に愛媛県から県立三島病院の移譲を受け、三島医療センターとして開設し、本院と併せて地域医療の一翼を担い、四国中央市と協力し、行政と一体となった取り組みをしてきたところです。さらに、市は平成24年1月に軽症救急患者の受け皿として、急患医療センターの新築移転と市民への救急体制の啓発活動の強化による勤務医の負担軽減により、地域の一次救急の充実が図られ、初期救急と二次救急の機能分化が着実に進んでおります。

当院は、従前より市からの産科及び救急医療の充実のための補助金を受けるなど、市当局との協力、連携を進めながら本地域に医療を提供しております。医師の確保等が困難な中、当院が今後も引き続き地域の医療提供体制を維持し拡充するために、市をはじめとする関係機関とこれまで以上に密に連携し、協力していくことが必要不可欠です。

当院としましては、四国中央市などの関係機関や地域住民の皆様のご助言やご協力を活かし、さらに地域に貢献できるよう、地域医療の確保と充実を図り、地域中核病院の早期形成に向け努力していきますので、患者皆様方のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

ご存知ですか「おくすり手帳」

薬剤部長 森 真人

「おくすり手帳」は、あなたに処方されたおくすりの名前や飲む量、回数などの記録(薬歴)を残すための手帳です。この手帳を医師・歯科医師や薬剤師に提示することで、あなたがどのようなおくすりをどのくらいの期間使っているのかが判断でき、同じおくすりがかぶっていないか、また飲み合わせ等について確認することが出来ます。

■こんなときに役立ちます

・ 医療機関を受診する時

複数の医療機関を受診する時や、初めて行く医療機関には「おくすり手帳」を見せるだけで、あなたのおくすりを確認してもらうことが出来ます。

・ 薬局でおくすりを購入する時

一般のおくすりや健康食品などでも、飲み合わせのよくないものが見つかることがあります。

・ 旅行先で急病や災害にあった時

旅先での急病をはじめ、かかりつけの医療機関に行けない場合でも、「おくすり手帳」があればあなたの薬歴をチェックできるので、治療や投薬が円滑に行えます。実際、昨年(2011年)の東日本大震災の時には、この手帳が大いに役立ちました。

・ 手術や検査を受ける時

おくすりの中には手術や検査に支障をきたすものがあります。当院ではこのようなおくすりを飲んでいないか、「おくすり手帳」で事前に確認させていただいています。

■利用にあたっての注意事項

病院や医院、歯科医院、薬局に行った時には、毎回、必ず手帳を医師・歯科医師や薬剤師に提示し、おくすりの名前等を書いた説明書を渡された場合は、それを手帳に貼ってください。

飲んでいるすべてのおくすりを**1冊の手帳に記録**することが大切です。病院ごとや薬局ごとに、別々の「おくすり手帳」を作らないようにしましょう。

■どこでもらえますか

「おくすり手帳」は院外処方箋による調剤の際に、保険薬局で作ってもらえます。また、当院でもご希望の方には無料でお渡ししています。



「おくすり手帳」はあなたの安全を守る大切な記録です。医療機関に行くときはもちろん、旅行などの際にも必ず携帯するようにしましょう。

～ 開放病床登録医師のご紹介【第9回】～

当院の開放病床に登録された先生方からご紹介いただいた患者さんには、ご紹介の先生と当院の医師とが共同で診療を行っており、入院前から一貫した医療をご提供しています。



花房内科

登録医：花房 学
住 所：四国中央市中之庄町 577-1
電話番号：0896-24-2200
診療科：内科、
リハビリテーション科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30～18:00	○	○	○	○	○	×	×



私は単なる開業医に過ぎませんので、特に得意としている診療分野もありませんし、診療所の特徴も特にこれと言った物はありません。患者様が来られる間は細々とやって行こうと思っている程度です。今、気になっている事は、二つの間違い。ひとつは、自分が処理しなければならない程度の病気を病院に紹介してしまう事。次は自分で処理できない病気を抱え込んでしまう事。このふたつを極力少なくする事。また、私が育った古い時代の医療、KKD(勘・経験・度胸)より、EBMへの脱却を図らなければならない事です。趣味はピアノやヴァイオリンの演奏、また、来年春より放送大学の数学科に入学しようと思っております。



みよし循環器クリニック

登録医：三好広典
住 所：四国中央市寒川町 1181-1
電話番号：0896-24-5311
診療科：循環器科、内科、皮膚科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:30～12:30	○	○	○	○	○	○	×
午後 13:30～18:00	○	○	—	○	○	—	×



平成15年から、私が診療を継承して、それまでの三好医院からみよし循環器クリニックに名称変更しました。当院は、名称どおり心臓疾患が専門です。循環器疾患(高血圧、狭心症、心筋梗塞など)を中心に、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病、皮膚疾患、ぜんそくやかぜなどの呼吸器疾患を地域のかかりつけ医として幅広く診療しています。四国中央病院には、検査や重症患者の入院でいつも助けていただいています。
私自身は、週一回テニススクールに通って続けています。短時間ですが汗を流して、十分運動した気分になっています。

新任医師のご紹介

(平成24.9～平成24.11月採用者)

宮崎 大輔【神経科医員】 趣味：お酒、ドライブ

三島高校を卒業以来、14年ぶりに地元に戻り、製紙工場の独特のにおいが懐かしいのと同時に、四国中央病院という新たな職場に勤務することで不安と期待の交じった新鮮さも感じています。至らない点も多いと思いますが、スタッフの方々、患者様方との人間関係を大切に、楽しく仕事ができればいいなと思います。よろしくをお願いします。

新任職員のご紹介

(平成24.9～平成24.11月採用者)

小西みちよ【看護師(外来)】

趣味：ガーデニング

9月から仕事復帰することとなり、総合病院での勤務は初めてで不安が大きいです。みなさまに迷惑をおかけすることが多いと思いますが、よろしくお願いします。

浜本耕治【看護師(北館3階病棟)】

趣味：ドライブ

10月から勤務させて頂いています。分からないことだらけですが、少しでも早く仕事を覚えていけるよう頑張っていきたいです。

原嘉由貴【看護師(北館5階病棟)】

趣味：スポーツ

今年の4月に看護学校を卒業した新人看護師です。香川県から来ました。スポーツが好きでバスケットボールを長年続けています。少しでも早く病院に慣れるよう頑張ります。よろしくお願いします。

丸尾太一【看護師(南館病棟)】

趣味：散歩

10月から勤務することになりました。少しでも早く仕事を覚えて、皆様と共に頑張っていきたいと思っています。不慣れなので、皆様のご指導を頂ければと思います。

川西百合子【看護補助者(北館3階病棟)】

趣味：映画鑑賞

今年8月まで老人施設で介護の仕事をしていました。病院勤めは初めてなので、先生方を初め、スタッフの方々に教えて頂きながら早く仕事を覚えて、皆様のお役に立てるように頑張っていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

院内のできごと・お知らせ (H24.9~H24.11)

- 9月19日 第14回市民公開講座「認知症のお話—その“物忘れ”は大丈夫?—」
- 10月 3日 院内研修会「耐性菌対策と抗菌薬の適正使用について」
東京医科大学 松本哲哉先生
- 10月25日 中央病院病院長会議(松山全日空ホテル)
- 10月26日 第48回中央病院学会(松山全日空ホテル)
- 10月29日 第3回肝臓病患者さんの会公開講座「肝臓病の食事療法」
- 11月16日 第4回四国中央病院糖尿病フォーラム
- 11月16日 第15回市民公開講座「糖尿病と腎臓のお話—透析を予防するために—」
三豊総合病院 森本尚孝先生

四国中央病院改修工事について

平成24年7月から改修工事を行っています。現時点では南館改修工事が終了、1月から、北館2階、北館3階同時に着工し、平成25年7月中旬頃に終了の予定です。透析センターの移設、分娩・新生児室の改修が主な目的です。騒音、駐車場の不足などで迷惑をお掛けしておりますが、御了承くださいますようお願い申し上げます。

■表紙のことば ~心は一つに~

今年の川之江秋祭りは文字通り素晴らしい天候に恵まれ、例年以上の盛り上がりが見られました。しかしあの震災以来、晴れ渡る青空の向こうに、いつ我々の身近で起こるかもしれない災害への不安を消し去ることはできません。

有事の際に病院が果たすべき役割の大きさは言うまでもありませんが、それは病院職員はもちろん、地域の皆さん自身の常日頃からの協力なくしてはあり得ません。

あの震災から早や、2年が経とうとしています。各種の備えは風化していないでしょうか。非常食や飲料水・常備薬の備蓄は十分でしょうか。大切な家族が普段飲んでいる薬や、おくすり手帳・保険証の保管場所を把握していますか。

万が一の時には、写真の太鼓台のように全員が心をつ一つにして、大きな局面を乗り越えなければなりません。それが杞憂であることを祈りつつ。

(写真・文 医事課窪田)

■編集後記

暦の上では立冬も過ぎ、日増しに寒さが増してきました。

広報誌「しこく」も今回で第50号という記念すべき節目を迎えることができました。巻頭言では、人間ドックの由来や、我が国における歴史そして四国中央病院での歴史について調べてみました。これからも予防医学に基づいた人間ドックが、転ばぬ先の杖となるような賢明な利用を皆様方にいただければ幸いです。10月に毎年恒例の中央病院学会が今回は四国の当番で行われました。全国8病院が一同に会し盛会の内に執り行うことができました。6月に開催されました第1回四国中央病院「がんフォーラム」と合わせ、今年度の対外的な二大行事が成功裏に無事終了し関係諸氏も胸をなでおろしていることでしょうか。平成21年より施行されました宇摩圏域地域医療再生計画の現時点での検証を森本病院長にお願いいたしました。今後とも各医療機関と行政そして市民が三位一体となり地域医療を守ってゆかねばなりません。今回の表紙は例年通り秋祭りの太鼓台を選びました。大きな太鼓台を一斉に差し上げた姿には、力強さというよりもむしろ美しさを感じます。まるで太鼓台が病院のように見え、心をつ一つにして差し上げる姿は私共職員一同のようにも感じられます。

今年ももう残りわずかとなりました。インフルエンザのシーズン到来ですが予防接種は済まされましたか。来年も健やかで心豊かな年を迎えられますようお祈り申し上げます。

(文責 相原)